



### 中国がわかるシリーズ 26 大唐世界帝国の陰り

ライフネット生命株式会社  
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

738 年、チベット・ビルマ系ロロ族の首長、ピロコが雲南に南詔を建国し、玄宗から雲南王に封じられました。742 年には、首都長安に次ぐ第二の都市、洛陽が東京に格上げされています。744 年、東突厥第 2 帝国は、ウイグル(テュルク系)のキョル・ビルゲ可汗によって滅ぼされました。

ウイグルは、都城の建設(バイ・バリクやオールドウ・バリク)、農業と交易の重視、経典を持つ外来の仏教やマニ教の信仰、7 世紀末に登場した突厥文字の使用など、これまでの遊牧民の国家とは少し異なった特徴を有していました(遊牧民の国家は固定した都城をもたないのが通例です)。ウイグルは、これから約 1 世紀に亘って草原世界の王者であり続けることとなります。やがて、チベットのトゥプト(吐蕃)とウイグルと南詔は、唐を挟んで複雑な合従連衡を繰り広げることになるでしょう。

747 年、楊太真が貴妃となり、玄宗は漢の武帝の後半生と同じ道を歩み始めました。治世が 30 年を超え、年老いた玄宗は政治に飽きてしまったのかも知れません。楊貴妃と玄宗は、梨園(玄宗お抱えの宮廷演舞団)の演芸を楽しみながら歓楽に耽ったのでした。梨園という言葉は、ここから来ているのです。

中国では、平和で安定した時代を「盛世」と呼んでいます。4000 年の中国の長い歴史の中で、盛世は、わずか 4 回しかありません。西漢の文景の治、唐の貞観の治と開元の治、それに清の康熙帝の時代です。3 回目の開元の治も終末が近づいてきました。新たな動乱の時代がやがて幕を開けようとしていました。その主人公は、玄宗、楊貴妃に寵愛された胡人の節度使、巨漢の安祿山です。